

「宇宙への玄関口」和歌山の歩みと展望

2026年7月1日

和歌山県 商工労働部 企業政策局

成長産業推進課 真島 英司

和歌山県、成長産業推進課の御紹介

- 和歌山県は、**本州最南端の県**
- **みかん、梅、熊野牛、生マグロ**や海産物などが特産。
醤油発祥の地でもある
- 仏教・神道の**世界遺産**、**温泉**、**白浜のビーチ**もある



- 和歌山県 成長産業推進課は、**新技術創出を推進し**
新産業振興・既存産業の高付加価値化を通じて
和歌山県経済の活性化を図る組織

成長産業推進課

宇宙産業班



GX推進班



エネルギー政策班



工業技術センター



(画像出典) 和歌山県、総合計画(2026-2030年度)、2025年12月
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020100/d00217904.html>

ロケット事業と和歌山県の歩み



2019年3月 進出協定



2022年4月 宇宙教育に関する協定

スペースワン社の取組

スペースワン(株)発足

2018年7月

2019年3月

スペースワン社、和歌山県、串本町及び那智勝浦町が進出協定を締結

スペースワン社が、和歌山県串本町を射場建設地に選定

スペースポート紀伊起工

※起工式にて、射場名称を発表

2019年4月

2019年3月

2019年8月

2019年10月

ロケット名決定
スペースポート紀伊完工

2021年12月

2022年4月

スペースワン社、和歌山県、県教育委員会が宇宙教育活動の推進に関する協定を締結

和歌山県立串本古座高等学校における宇宙教育活動を推進

カイロス初号機打上げ

2024年3月

2024年4月

カイロス2号機打上げ

2024年12月

2025年3月

2025年6月

2025年8月

2025年12月

カイロス3号機打上げ

2026年3月

和歌山県の取組

わかやま版PFI
32億円無利子融資決定

第1回宇宙シンポジウム

民間ロケット発射場
周辺地域活性化協議会設立

県立高校での
宇宙教育コース開始
立地・雇用奨励金での
2億円支援

Kii Space Hub 立上げ
宇宙アクションプラン策定
県総合計画策定

機運醸成：宇宙シンポジウム (2019-)

- 2019年より、宇宙分野への地域理解促進のためのシンポジウムを、発射場のある串本町で開催。宇宙飛行士、科学者・エンジニアといった最先端の有識者を招聘
- 2022年より、県立串本古座高等学校の生徒が受付や司会などの運営や事例発表を実施



令和7年度フライ



高校生による受付



基調講演



高校生による事例発表



パネルディスカッション

打上げ協力：地域協議会(2019-)、イベント・中継・渋滞対策、警戒区域周知等

- 2019年10月、行政機関、関係団体及び交通機関の**20団体で構成する地域協議会を組織**
- 打上げを契機とした経済波及効果の最大化と交通渋滞の回避の両立を目指し、打上げ当日の**見学イベント開催、オンライン中継、交通渋滞対策**を実施
- 安全な打上げ実現に向けて、**警戒区域の周知**を県・町の複数媒体で実施

見学場



スペースポート紀伊周辺地域協議会

会員：副知事(会長)、串本町長・那智勝浦町長(副会長)、
関係行政機関、その他関係者

誘客対策
(見学場運営等)

交通渋滞対策
(交通規制)

**経済波及効果
最大化**



交通渋滞の回避

オンライン中継



交通渋滞対策イメージ



Posts Replies Videos Photos



和歌山県 @WakayamaPref · 2026/03/04

【交通規制・警戒区域情報】
カイロスロケット3号機の打ち上げが、3月5日(木)11時10分頃に予定されています。打ち上げに伴い、交通規制及び警戒区域が設定されますので、ご注意ください。

詳細はHPでご確認ください
wakayama-rocket.com



人材育成：日本初、県立高校での宇宙専門コース設置（2024-）

県立串本古座高校

- 生徒数：219名（2025年5月時点）
- 地域資源と宇宙分野を活かした探究学習を通じ、地域や社会に貢献できる人材を育成

高校・発射場の位置関係



宇宙探究コース

- 2024年4月、「宇宙探究コース」を新設
- 元JAXA職員を教員として採用
- 宇宙科学や技術を学ぶカリキュラムを実施



校舎



宇宙航空工学授業



宇宙総合研究

施策方針の整理 (2025)

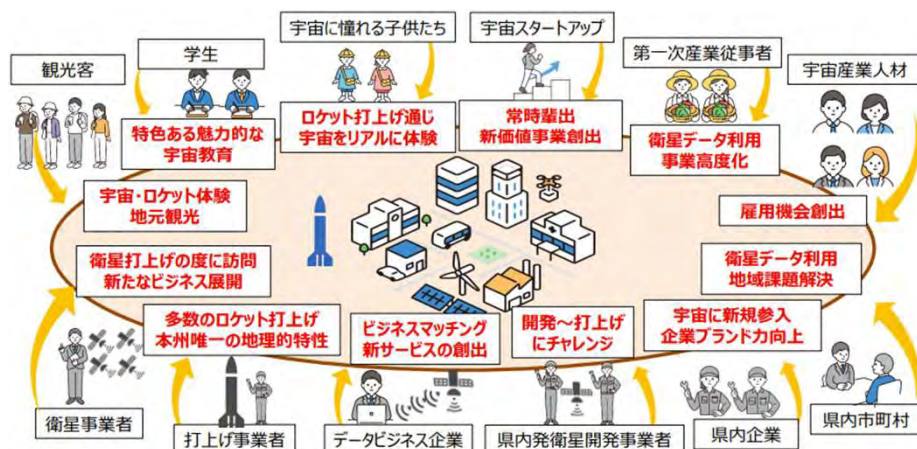
2025年8月 宇宙アクションプラン

- 「宇宙への玄関口」を目指し、
以下7分野の重点推進テーマを設定

ハード：①宇宙輸送、②衛星製造、③地上設備

ソフト：④衛星データ利活用

人材・観光：⑤宇宙教育、⑥産業人材、⑦観光



2025年12月 和歌山県総合計画

- 県政全体の中長期方針。今後5年の主要施策に
宇宙産業の振興、産業人材育成を位置付け

成長産業の誘致

- 小型ロケット発射場を中心とする宇宙産業の集積に向け、
ロケット打上事業者の事業拡大への支援を継続するとともに、
県内企業の宇宙産業への参入支援や、市町村・関連事業者と
連携した宇宙関連企業の誘致活動を推進

宇宙領域を活用した第三次産業の創出

- 衛星データを活用した地域課題や社会課題解決、第一次産業の
高度化等を推進するため、衛星データビジネス事業者や県内IT
事業者等が、地域のステークホルダーと連携して行うサービス
開発等を支援することで、新たな宇宙ビジネスを創出

県立高等学校の特色化・魅力化

- 次世代の生産システムを創造・駆使して生産活動を支える人材
を育成するため、カーボン リサイクル燃料、蓄電池、宇宙
など、成長産業で求められる教育プログラムを開発・導入する
とともに、県内外からの生徒募集を実施するなど、特色ある
人材育成を推進

産業振興：宇宙まちづくり推進 ～Kii Space HUB～ (2025-)

- ロケット打上げが進む中、企業誘致・県内事業者の新事業展開による宇宙産業集積・地域活性化を推進中
- 2025年度より、宇宙エコシステム構築に向けて「宇宙まちづくり推進事業」を開始。宇宙産業参入コミュニティ”Kii Space HUB“を立ち上げ、事業開発セミナー・ワークショップ等を実施
- 複数の県内事業者が、宇宙分野の展示会出展、製品試作、新事業立ち上げなどに着手済み

■ エコシステム構築：セミナー、ワークショップ

宇宙産業参入を目指す事業者向けに、セミナーやワークショップを通じた支援を実施



Kii Space HUB キックオフイベント



ワークショップ風景



太洋テクノレックス(和歌山市) FPC

(FPC画像出典) 太洋テクノレックス 提供



ODEC(有田市) 金属積層造形部品

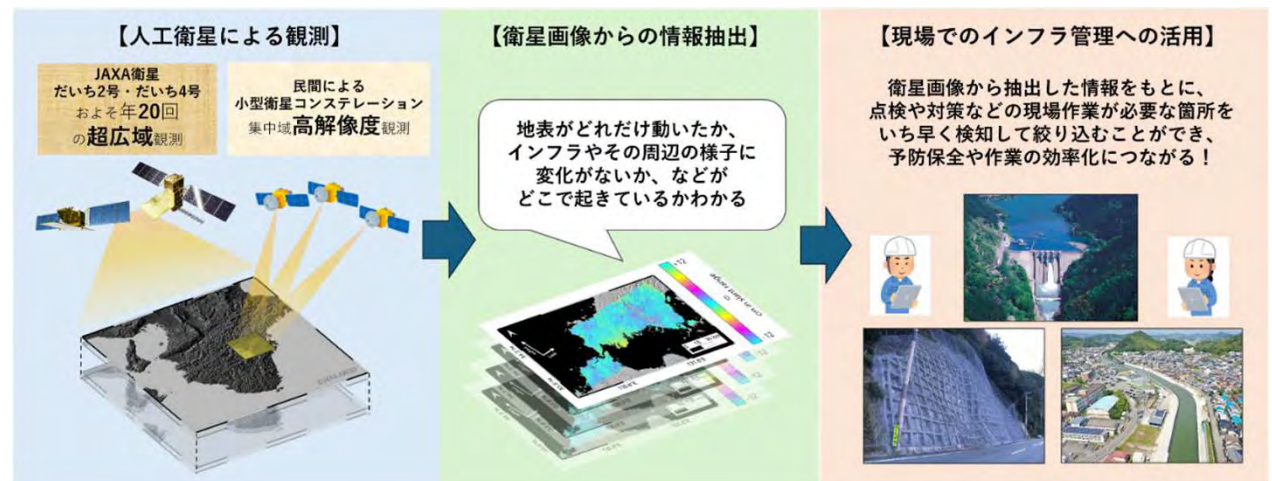
(部品画像出典) ODEC 提供

JAXAとの衛星データ活用に向けた共同実証（2026-）

- 2026年2月20日、JAXA 瀧口 太 理事と和歌山県知事が面会。3月26日、JAXA・和歌山県が衛星データ活用の共同実証を開始する覚書を締結
- 今後2年間、和歌山県とJAXAが協力して、和歌山県内に広く分布するインフラや森林と、「だいち4号」等の衛星データを用いて、インフラ分野・森林分野での衛星データの有効な活用方法を検討する（以下取組例）
 - ✓ 広域かつ高頻度での監視に多くの人件費を要するインフラ構造物や周辺の斜面・地盤を対象として、主にJAXAのSAR衛星により微小な変位を面的に計測するための解析を行い、**国内外のインフラ管理における点検の効率化や事前防災・予防保全**への活用可能性を検証
 - ✓ **バイオマスマップ**や、マツ枯れ・ナラ枯れ等の**病虫害把握**における衛星データの活用可能性を検討



和歌山県知事・JAXA 瀧口理事の面会



インフラ分野における実証イメージ ©JAXA

（画像出典）和歌山県、和歌山県とJAXAが衛星データ活用の共同実証の検討を開始します、2026年2月20日
参照2026年3月31日 <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/063100/d00221713.html>

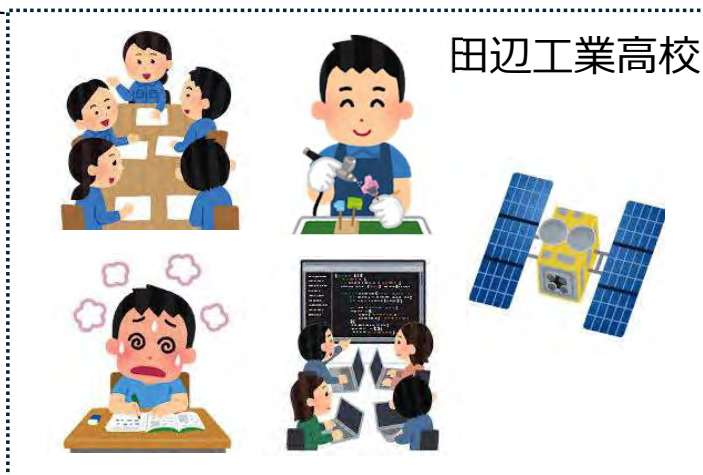
人材育成：県立工業高校で人工衛星の製造実習を開始（2026-）

- 和歌山県では、令和8年度の重点予算事業で産業人材育成を強化する
宇宙分野では、工業系高校において企業と連携した教育プログラムを開発・実践していく
- 民間小型ロケット発射場が位置する紀南地方の田辺工業高等学校において、課題実習の授業で高校生に超小型人工衛星(モックアップ)の作成機会を提供し、宇宙産業人材を育成する

対象校	分野	授業	学年	育成人数
県立 田辺工業高校	宇宙分野	課題実習 50分×2コマ／週 (通年、30週)	高校3年生 (機械科、電気電子科、 情報システム科)	毎年20名程度 (5か年で100名)



×



将来的
には



地域未来戦略「戦略産業クラスター計画」への貢献

- 地域未来戦略「戦略産業クラスター計画」の素案(2026年5月18日公表)では、**宇宙関連産業クラスターが近畿圏でのテーマ候補**に位置付けられている
- 和歌山県としても、産学官の関係機関と連携を強化し、国家戦略特区制度の活用も検討しながら、**宇宙関連産業クラスターの集積推進、日本の宇宙産業発展へ積極的に貢献していく**

宇宙関連産業クラスター

【戦略17分野産業領域：航空・宇宙】

現状・ポテンシャル

- 全国有数のロケット発射場を中心とした輸送クラスター
 - 国の宇宙基本計画工程表(R7改定)では、民間打上げ制度整備・高頻度化が明示され、射場の重要度が急上昇。
 - 本州唯一の民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」(和歌山県串本町)では、**小型ロケット「カイロス」の組立・打上げが進展**。
 - 今後、**発射場を中心に宇宙関連事業者の投資**が見込まれる。
- 宇宙人材の育成・産業化に向けた研究開発
 - 和歌山の公立高校に全国初の宇宙探求コースを設置。工業高校での人工衛星製造の実習を通じた宇宙人材育成も進行。福井県内の大学・高専では人工衛星設計や衛星データ活用に関する人材育成を実施。
 - 宇宙戦略基金で立命館大学のSX研究開発拠点が採択。びわこ・くさつキャンパスの宇宙地球探査研究センター(ESEC)を中心に、月面探査・利用の産業化に向けた宇宙機器開発や人材育成が進行中。宇宙経済分野を担う大学院構想も発表。
- 衛星製造・データの利活用
 - 福井、大阪、和歌山等、衛星製造を目指す事業者が存在。福井県の熱真空試験機や大型アンテナ等、近畿地域には衛星の**開発から運用までを一体的に支える試験・運用インフラが集積**。
 - 福井県民衛星「すいせん」等を活用した衛星画像利用システムの開発・活用や、和歌山県におけるJAXAと連携したインフラ予防保全、森林管理への衛星データ活用検討等、衛星データ事業の具体化も進展。
- クラスター形成の意義
 - **核となる拠点であるロケット発射場に加え、製造、試験・評価機能、運用(地上局)、データ利活用、人材育成といった複数の機能が同一区域内に存在**。
 - これらの機能が相互に関係し合うことで、多様な関連企業の参入余地を生み出し、**民間投資や産業の裾野拡大を段階的に誘発する産業集積の形成が期待**。
 - **打上げを高頻度かつ商業的に回せる体制を構築できるかが競争力を左右する状況の中、日本が国際的に存在感を示すための具体的な地域モデルとなり得る**。

政策的課題

- 民間ロケット打上げの高頻度化等に向けた投資・制度整備
我が国として年間30件程度の打上げ能力を目指す上で、**民間ロケット打上げに係る射座・組立棟・燃料保管庫等への大型投資**が不可欠。また、高頻度打上げ・コスト低減の実現に向けては規制面の検討、国家戦略特別区域制度の活用も考えられる。
我が国産業競争力・経済安全保障の強化に向けた**高性能かつコスト競争力あるロケットの開発に資する継続的な支援・環境整備**も必要。
- 宇宙関連サプライチェーンの国内整備
ロケット高頻度打上げに係る部材・燃料・機器・GSE(地上支援設備等)製造、衛星データ活用等、各分野のサプライチェーン形成が必要。さらに、拠点化・集積の進展に応じて物流等に関する道路ネットワーク等周辺インフラ整備も重要。
- 産業化に向けた研究開発や産業人材育成の継続・強化
高校・高専・大学等での多様な産業人材育成には、産学官、国・地域等が連携して施策を継続・強化する必要がある。

● スペースポート紀伊【核となる拠点】
日本初の民間ロケット専用射場として整備。固体燃料小型ロケット「カイロス」を開発するスペースワン社が、契約から打上げまでの世界最短・高頻度打上げを目指す。近畿地域における宇宙輸送産業の実証・商業化の中心地。
※2026年3月、「カイロス」3号機は打上げ後、高度約29km地点において飛行中断措置が取られ、初号機・2号機に続き、衛星の軌道投入には至らず。



85

(画像出典) 地域未来戦略に関する関係副大臣等会議(第3回)・地域未来戦略に関する総理報告、近畿地域における戦略産業クラスター計画の素案、2026年5月18日
参照2026年6月8日 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/chiikimirai/kankei_fukudaijin/dai3/sankoshiryo1no7.pdf